

9月・10月の管理ポイント

第152号 2018年09月01日発行

残暑が過ぎれば、ベントグラスの生育適期がやってきます。弱体化したベントグラスを回復させ、冬越しに向け根を伸ばし養分を貯えるため、生育環境を整えましょう。

当社Webサイトにて
バックナンバー掲載中
<http://www.tomo-green.com/>



土壤水分環境を整えましょう

レボ (REVO)

厳しい夏を乗り越えたベントが、生育期の中に回復し、さらに根を十分に生育させ養分を貯えられるように、土壤水分環境を整えましょう。レボを処理すると、「地際を乾燥させる（病害や藻を防ぐ）」「根圏の水分を少なめに保持する（気相の割合が増えるので根が十分な酸素を得られる）」「毛管水が繋がる（根が水を吸ったら、即、周りの土壌から水が供給される）」ので、土壤水分環境をベントグラスの生育に適した状態にすることが出来ます。常に最適な土壤水分環境を維持するには定期散布がお勧めです。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回



土壤中の有害物質除去

光合成細菌

土壤中に発生する硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく、根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は、硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP（高エネルギーリン酸化合物：補酵素）などを分泌し、有用な土壤微生物の住みやすい環境を作ります。サッチリムーバーと組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1~2ml 1ℓ/m²散布 月1~2回



弱ったベントと土壤菌数の回復に

グリーンメカ

残暑の厳しい9月は高温による芝の呼吸量が増加し、糖含有量は減少します。また、10月に入るとベントの生育期となり、糖の消費量も増大します。糖が少なくなると特に根に影響を与えるので、グリーンメカでしっかり補給していきましょう。

使用量：2-10ml/m² 散布水量：1ℓ/m²



サッチの除去には

サッチ・マネージャー

本剤は、自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力のある16種類の有用菌を選抜した微生物資材です。製剤1g当たり約400億個の菌が配合されているので、土壌中でも安定した効果が期待できます。ラフ・FWは低価格のサッチ・マネージャー、殺菌剤を多用するグリーンには酵素剤サッチ・リムーバーがお勧めです。

サッチ・マネージャー（微生物資材）使用量：ラフ・FW 0.1~0.2g/m² グリーン 0.5g/m² 散布水量 0.2~0.5ℓ/m²
サッチ・リムーバー（酵素資材）使用量：1~2g/m² 0.5ℓ/m²散布 使用回数：月1~2回



害虫の発生にあわせて散布

スティンガーフロアブル

9月は、スジキリヨトウ、シバツトガ、タマナヤガの重要な防除シーズンです。特に鱗翅目害虫は発生ピークが長く、数種類で混在して芝生を食害するので、殺虫剤のローテーション散布が必要です。スティンガーフロアブルは、グリーンで1ヵ月、ラフFWで2ヶ月以上の効果が期待できるので、ローテーション散布の基幹剤としてご使用いただけます。

使用量：スジキリヨトウ 0.035ml/m² シバツトガ タマナヤガ 0.05ml/m²
散布水量：50-500ml/m² 使用時期：発生初期

強光ストレス 2

前号のマメ知識では、植物が真夏に受ける強光ストレスをテーマにしましたが、実は冬場にも強光ストレスを受けます。今号では、冬場に起きる強光ストレスについて取り上げてみました。

前号のおさらい

強光ストレスが起きる原因

光合成に使い切れない量以上の過剰な光を植物が吸収してしまうこと

植物が元気なら、真夏の強い光を浴びても、深刻なダメージは受けません。しかし、夏場は、高温ストレス、水ストレス…等 様々なストレスで弱体化し、**光合成活性が低下**します。すると、光合成に使う光の量が減少するので、元気な時と同じ量の光を浴びても、過剰になる光の量が増加し、防御しきれなかった活性酸素によって組織がダメージを受けてしまいます。



冬場に光合成活性が低下する原因

低温	<p>気温が10℃以下になると、ベントガラスの生育はほぼ止まります。酵素の働きが低下し、光合成活性も低下します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温にある程度晒されても、植物は余りダメージを受けません。低温に晒されている時に、過剰な光を吸収すると、短時間で甚大なダメージを受けてしまいます。 ・低温と強光によって起こるストレスですが、低温ストレスと云われています。 ・徐々に寒くなるより、急に寒くなった時の方が大きなダメージを受けます。 ・植物体内の水が凍ってダメージを受けるのは凍結ストレスで、低温ストレスとは異なります。
材料不足	<p>水の不足 冬場は空気が乾燥しているので蒸発散しやすくなります。しかも、散水量が減るので、土壌中の水が少なくなりがちです。植物は、光合成に使う十分な水を確保できず、光合成活性が低下します。</p> <p>二酸化炭素の不足 冬場は空気が乾燥しているため、根からの吸水量より蒸散量の方が多くなり、植物体内の水が不足しがちです。すると、植物は気孔を閉じますが、気孔が閉じていると二酸化炭素を取りこめなくなり、光合成に必要な分量の二酸化炭素を確保できず、光合成活性が低下します。</p>

低温で光合成活性が低下している時にストレスを受けると、更に光合成活性が低下し、光合成に使う光の量は僅かになります。すると、冬場の光(夏に比べて弱い)でも過剰になり、植物組織はダメージを受けます。

強光ストレスは、ダメージが遅れて現れるため、原因が見逃されがちです

ストレスを貯め込まない

適度な土壌水分を保持する

芝自体の免疫強化

以上の点に注意し、強光ストレスによるダメージを出来る限り軽減させましょう